

【中央設計技術研究所が施工監理 クリーンセンターが竣工

河北郡市、1日98tを償却 津幡・能瀬】

# クリーンセンターが竣工

## 河北郡市、1日98tを焼却

津幡・能瀬

河北郡市広域事務組合が津幡町能瀬で建設を進めていた「新河北郡市クリーンセンター」の竣工式は28日、現地で開かれ、関係者約50人が廃棄物の適正処理を担う施設の完成を祝った。かほく、津幡、内灘の1市2町から出る可燃ごみや下水汚泥を1日98t焼却する能力を備えている。

式では、理事長の矢田富郎津幡町長が「長期的に安定した処理が可能となり、衛生的で快適な生活環境の実現に大きく寄与すると確信している」とあいさつし、来賓の杉本成一組合議長が祝辞を述べた。油野和一郎かほく市長が乾杯、川口克則内灘町長が万歳三唱の発声を行った。

新クリーンセンターは志賀町の石川北部RDF



完成した新河北郡市クリーンセンター＝津幡町能瀬

センターが今年度末で廃止となることを受け、旧浄化センター跡地に整備された。建設規模はRC・SRC・S造、地下1階地上5階建て延べ51

57・14平方メートル。24時間全連続燃焼式ストーカ炉2基を備え、1日当たり118t（可燃ごみ88t、下水汚泥30t）のごみの受け入れに対応する。

ごみ焼却時に発生する熱を蒸気で回収して発電する蒸気タービン発電機（最大出力1700キロワット）を備え、電力を敷地内の給湯器や融雪設備に有効活用する。余剰電力は北陸電力に売電される。設計・施工はタクマ、施工監理は中央設計技術研究所が担当した。総事業費は約115億円。